時空散走 iwaki

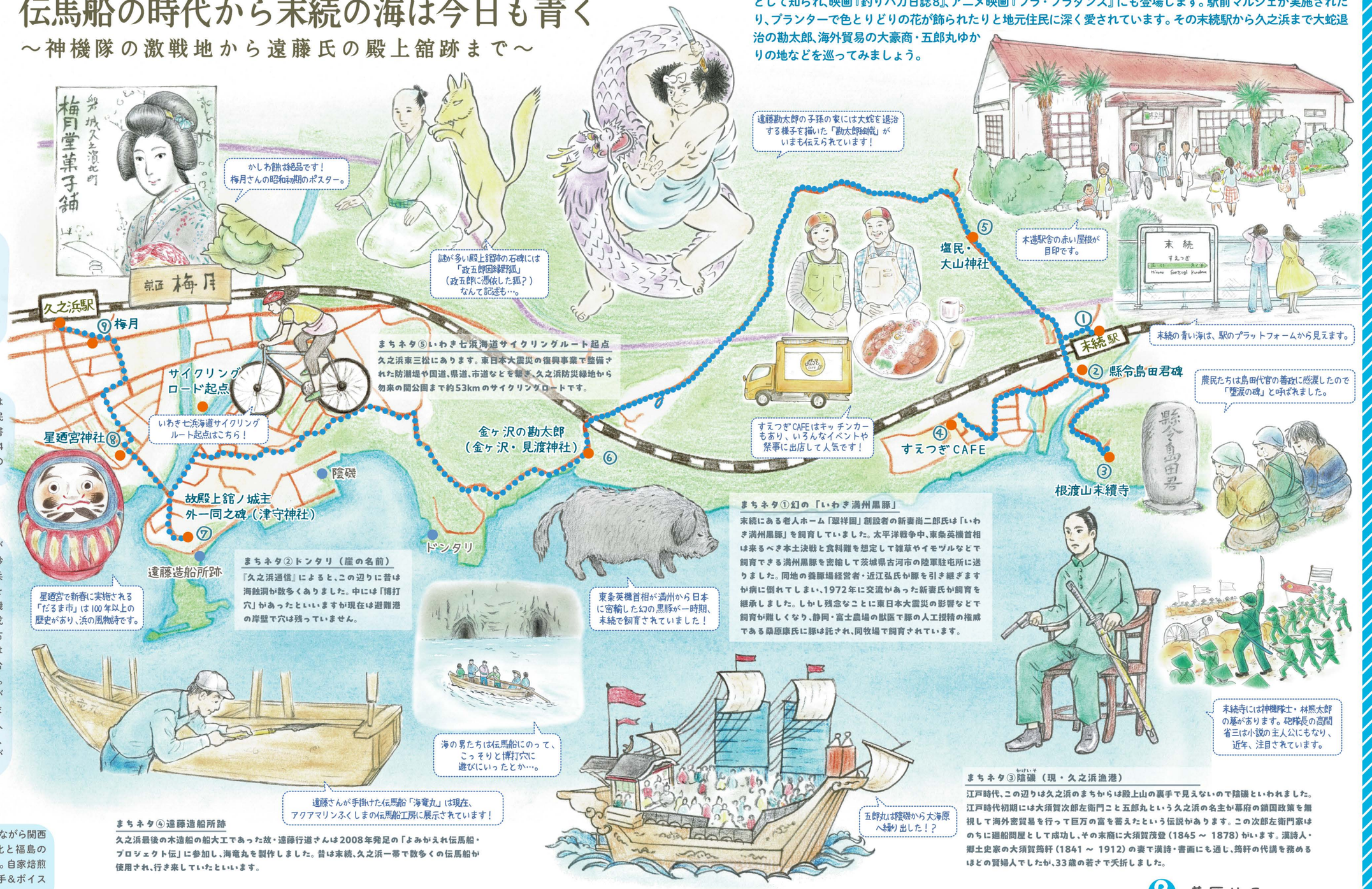
末続・久之浜（末続駅）

距離：約９キロ　サイクリング所要時間：約 40 分　ウォーキング所要時間：約 120 分

伝馬船の時代から末続の海は今日も青く

～神機隊の激戦地から遠藤氏の殿上舘跡まで～

平安末期に常陸平氏の流れをくむ岩城氏が土着して好嶋荘（よしまのしょう）（現・いわき市中央部から北東の海岸部にまたがる庄園）に勢力を伸ばし、その荘園の末に続く土地であったので「末続」の名がついたといいます。末続駅は「海が見える駅」として知られ、映画『釣りバカ日誌8』、アニメ映画『フラ・フラダンス』にも登場します。駅前マルシェが実施されたり、プランターで色とりどりの花が飾られたりと地元住民に深く愛されています。その末続駅から久之浜まで大蛇退治の勘太郎、海外貿易の大豪商・五郎丸ゆかりの地などを巡ってみましょう。



※このマップは現地取材や資料に基づいて作成されていますが専門家によって諸説あります　真実はあなた自身が現地を訪れてみて発見してください。

1 末続駅

明治31年（1898）に常磐線が開通しましたが広野駅（広野町）と久ノ浜駅間は8.4kmと長く戦時中の昭和19年（1944）に緊急時用の信号所が末続に開設されました。戦後、地元住民は駅昇格のために松茸や干柿を手土産に関係者に陳情を繰り返し、結果「地元側が駅舎を建設すること」を条件に認可されました。住民は共有林を伐採して資材提供し、延べ3000人の労力で昭和22年（1947）に駅が開設されました。

2 縣令島田君碑

天保7年（1836）の飢饉のさいに小名浜代官・島田帯刀は幕府に無断で年貢徴収を延期し、備蓄米を配給して貧民を救済しました。幕府からは職権乱用で咎められ、御書物奉行の閑職に追いやられますが住民の嘆願で天保14年（1843）、再度、小名浜代官に復職しました。石碑の「縣令」とは代官の事で帯刀の偉業を顕彰したものです。

3 根渡山末續寺（まっつぐじ）

寺伝では永和2年（1376）、法印通翁の開山ですが元禄時代に伽藍を焼失し、詳細不明です。本堂内に妙見尊像があり、戊辰戦争（1866）で敗走した相馬藩兵が預けたという伝承があります。また長州の奇兵隊を参考に広島藩の武士、農民、商人で結成された「神機隊」の林熊太郎（享年24歳）の墓があります。林は戊辰戦争・末続の戦いで負傷し、当時の戸長・鈴木常右衛門の屋敷で亡くなったといいます。神機隊326名は自費で新政府軍に参加し、浜通りで激戦を重ね、仙台入城したさいは死者・重傷者が3分の2に達しました。本堂横の太子堂は、かつて末続浜に聖徳太子の木像が乗った丸木船が上がり、それを祀ったものといいます。太子は仏教伝道のために寺院を建立したので職人の祖として崇められ、末続寺の太子講（戦後に一時期、開催された）は、いわき中の大工、職人1000名以上がお参りしたといいます。

4 すえつぎCAFE

オーナーの岡森一史さんは大阪でサラリーマンをやりながら関西各地のカレーを食べ歩いて研究し、大阪のダシ文化と福島の食材を融合させたスパイスカレーを完成させました。自家焙煎に拘った珈琲も名物で、担当する岡森綾子さんは歌手＆ボイストレーナーで、時折、カフェでライブなども開催されます。

5 塩民・大山神社

末続浜では昔、塩作りが行われていました。塩民の字（あざ）はその名残といいます。『郷土誌久之浜』によると、かつては塩民鉱泉が湧出していました。ほんのりと淡黄色のアルカリ性の塩類泉で皮膚病、婦人病に効果があったとか。また塩民の旧道の竹藪脇には坑口があり、炭鉱が採掘された時期もあったといいます。当地の大山神社には鉱山関係者が訪れたかも知れません。

6 金ヶ沢の勘太郎（金ヶ沢・見渡神社）

見渡神社のある集落を金ヶ沢といいます。『西郊民俗』によると昔、人を殺めた鍛冶職人が金ヶ沢に逃げましたが潜りの名人・遠藤勘太郎は職人を匿いました。ところが職人は贋金作りを始め、それが発覚したのでまた逃亡します。数年後、偶然、勘太郎が職人と再会し、職人は世話になった御礼に出羽三山・月山に奉納の名刀を打ち直してナサシ（魚刺し）の「月山丸」を作りました。多くの獲物が取れ、海水も三尺ばかり割けて海中を自由に往来できたといいます。また平・絹谷の青滝の大蛇が堤を堰き止めた時に勘太郎は月山丸を持って「池が青いままなら蛇に食われて失敗。赤くなれば成功だ」と池に潜りました。やがて池は真っ赤に染まり、見事、大蛇を討ちました。勘太郎死後、子孫が月山丸を打ち直して数本のナサシを作りましたが残念ながら普通のナサシになったといいます。

7 故殿上舘ノ城主外一同之碑（津守神社）

津守神社境内にあります。かつて当地に殿上舘があり、遠藤氏の居城でしたが、岩城氏に攻められて落城したといいます。昭和8年（1933）に遠藤氏の子孫・末裔の方々が建立した石碑には城主、奥方、姫、家臣の他、「谷泉力士」「風呂番幸吉」「洗濯婆トメ」「八歳ノ赤馬」「政五郎因縁野狐」（政五郎に憑依した狐？）など81名の名前が記載されています。また落城した日が「えびす講」の縁日であったので、いまも子孫・末裔の方はえびす講を行わないといいます。

8 星迺宮（ほしのみや）神社

以前の社殿は東日本大震災で流出し、現在の社殿は元はアサヒビール西宮工場にあった旭神社でした。昭和3年（1928）に企業内神社として建立され、西宮空襲や阪神淡路大震災も乗り越えてきましたが、いわき復興のために兵庫県神道青年会などの支援で当地に贈られました。

9 菓匠梅月

明治 24 年（1891）創業の老舗和菓子屋さんです。東日本大震災で津波に遭い、その後の火災で全焼しましたが「もう一度、梅月のかしわ餅が食べたい」という地元住民の声に奮起し、震災から 1 年後に国道 6 号線沿いに移転して再開しました。久之浜のお土産としてぜひ！

諸説あり

IWAKI　末続・久之浜

＜いわき時空散走プロデューサー＞ 陸奥賢　＜いわき時空散走事務局長・コーディネーター＞ 寺澤亜彩加　＜アシスタント＞井上栞里　＜スーパーバイザー＞ 権丈泰巳　＜マップデザイン・イラスト＞ 藤城光＆フジキカオリ　＜リサーチ協力＞高木史織　＜スペシャルサンクス＞ 遠藤定幸、岡森綾子（すえつぎ CAFE）、四條廣重、谷平健一、新妻英正、西山直一、林克伊

お問い合わせ　0246-85-0170（いわき自転車文化発信・交流拠点ノレル？）　contact@jiku-sanso.jp（いわき時空散走事務局）

※このマップは、いわき自転車文化発信・交流拠点「ノレル？」の「いわき時空散走」プロジェクトのための資料です。2024 年 6 月現在のもので道路状況なども変更されてしまう場合があります。最新の地図と照合しながらご使用ください。